

県内で第1号の「生産性向上支援訓練」 10月にスタートしました！

労働生産性の改善・向上のために今年度から始まった人材育成支援制度を活用されたのは、電力会社向けに制御装置や電源装置などの製造やシステム開発・保守事業等を行うチクシ電気（株）佐賀工場（野村健治取締役 工場長：社員約250名）さん。

「電力自由化の波が押し寄せるこの業界で、当社として生産性の改善や新規の事業展開への布石として必要となったのは、やはり社員の人材育成です。」「従来から、階層別の人材育成には通信教育制度を活用していたのですが、お仕着せのカリキュラムで特に現場の課題解決には成果が見えにくいことや、受講状況及びその効果について会社の眼が届きにくかったという欠点がありました。」と語るのは龍 敏夫生産効率化担当部長。



当社で生産技術効率化を担当する龍 部長

そこで今回受講されたのは、会社の課題やニーズを最も反映しやすい「生産現場の問題解決」コースで、材料発注の一つが製品単価へどう反映されるか等、日頃問題視されていた会社側の要望を加えて担当される講師に内容を細かくカスタマイズ(特注)していただきました。

実施会場についても自社の会議室で、受講時間も午後の時間を4日間に分けて、合計12時間を効率よく実施され、研修のための受講者の移動時間や経費の負担も無くなりました。

2日目以降に実施した、事前に検討した課題テーマ毎にチームによる改善の議論を元に発表するという手法は、受講者の方々にも「直接自分の現場をイメージしながら明日からの改善策に結びつく。」と好評で、熱の入った発表を通じた訓練となりました。



「巻取り機のスピードUPのために」を議論するチーム



「機械部品の効率的な加工方法」を細分化するプレゼン

受講後の感想には、「現場の問題点を細目化して『見える化』した演習で、無駄な動きとともに今まで気づかなかった改善点を発見し、自問・着想する必要性を実感した。」などの、受講者の成長に繋がる多くの話を聞くことができました。

また、会社側としても、次のステップとなる生産性の効率化に向けた人材育成策の一つとして、他の生産性向上支援訓練の受講も視野に入れていただいております（現在47あるコースの中から検討中）。